

# 文献調査に基づく就労困難性(職業準備性と就労困難性)の構成要因に関する検討

- 武澤 友広 (障害者職業総合センター 研究員)  
古田 詩織・井口 修一・内藤 眞紀子・宮澤 史穂・  
伊藤 丈人・田中 歩・知名 青子・村久木 洋一・  
國東 菜美野 (障害者職業総合センター)

# 背景

- 障害者の就労への移行にあたっては、移行前の相談支援において障害者本人の現状に適した就労の場や必要な支援サービスを検討するため、**職業準備性** を評価することが必要

個人に職業生活の開始と継続に必要な条件が用意されている状態（相澤, 2019）

- 参照すべきもう1つの概念が **就労困難性**

仕事に就く前から就いた後までに経験される具体的な「活動」「参加」の困難や困りごと（NIVR, 2015）

# 問題

---

- 就労困難性と職業準備性、両概念の関連性はこれまで十分に整理されてはいない。
- 特に就労困難性に関しては、その構成要因が明らかにされていないため、職業準備性との共通点と相違点が不明確である。

# 目的

---

文献調査により就労困難性として認識されている事柄を抽出し、それらの分類を行うことで就労困難性の構成要因を明らかにする。

# 方法 ①

---

## ■ 文献検索

- 2020年5月に電子検索
- NIVRの調査研究報告書・資料シリーズ（報告書）
- 研究担当者が独自に把握した関連文献

## ■ 電子検索に利用したデータベース

- CiNii、J-STAGE

## ■ 検索条件

- 検索語 ▶ 障害者、Work disability、就労、雇用、職業、困難、課題、準備、Readiness など
- 検索範囲 ▶ 2014年1月～2020年4月

# 方法 ②

---

## ■ 分析対象： 103 件

□ 論文のタイトル及び要旨から以下a～cの言及が期待できる文献

a. 職業人としての役割を果たすことが困難な状態

b. 一般企業への就職、または就業を継続するために  
要請される心理的・行動的条件(能力を含む)

c. a の状態または b の条件の充足状況を確認できる行動

□ 上記a～cの言及が期待できる、下記のテーマに関する報告書

「障害者雇用の状況等の把握」「障害特性/課題の把握」など<sub>5</sub>

# 方法 ③

---

## ■ 就労困難性に関する記述の抽出及び分類

- ① 文献及び報告書を通読し、a～cのいずれかに該当する記述を抜粋
- ② 各記述を「職業準備性」「就労困難性」「それ以外」の3種類の記述に分類
- ③ 「就労困難性」に関する記述を意味の類似性に基づきカテゴリにまとめ、共通する意味を表すカテゴリ名を付与

# 結果 ▶ 就労困難性の分類

カテゴリー	特徴	記述例
障害・疾病による活動制限	障害・疾病により職業準備性の要件が充足できない状態	積雪時、車いすの自走による通勤は困難（身体障害）
予期せぬ活動制限	障害・疾病の変動性または職場以外の要因が関連する活動制限	急に体調が悪くなると、すぐにそこで横にならなければならないので会社の決めた休憩時間に合わせられない（難病）
進行性の活動制限	進行性の障害・疾病が関連する活動制限	病気の進行があり、視野の欠けが進んだ場合は現職の継続は困難（難病）

カテゴリー	特徴	記述例
過剰適応	職場環境に適応しようとするあまりかえって就労が困難になること	他者から嫌われたくないという思いから何もできなくなってしまうといった過剰適応の傾向が見られていた(精神・発達障害)
自信の不足	就労への自信のなさ・不安により職業生活を開始できない状態	急な体調変化があるため、毎日定時に出勤できる自信がない(難病)
障害・疾病の開示／配慮要請の困難	障害・疾病を職場に開示すること、または合理的配慮を要請することが困難な状態	難病であれば雇ってもらえず、隠して働くから無理がたたリ、入院してバテてやめざるをえなくなる(難病)

カテゴリー	特徴	記述例
職場による障害・疾病の理解・受容困難	職場の上司・同僚が障害・疾病を正しく理解することが困難な状態	同じことを何度も聞くのでやる気がないと叱られる (高次脳機能障害)
職務設計の困難	企業が障害者に適した職務を設計できない状態	あらゆる手段を尽くしても任せられる仕事が見つからず、途方にくれた (知的障害)
職場における配慮実施の困難性	職場において障害者への配慮を実施することが困難な状態	確認が多くなると、その分職場のフォロー一度も増す (高次脳機能障害)

カテゴリー	特徴	記述例
職務と障害・疾病の特性のミスマッチ	配置された職務と障害・疾病の特性間の不整合のために就労継続が困難な状態	お客様に直接接していたので、具合が悪いからとって、実際に休んだり座ったりできなかった（難病）

## 考察と展望

障害・疾病による影響がいつ現れるかの予測可能性、職場の障害理解・雇用ノウハウの有無、主観的体験（自信、不安など）といった就労困難性の構成要因を把握できた。今後も分析結果を適宜見直す等して、就労困難性の概念を継続して検討する予定である。